



## ブルネイ・ダルサラーム大学 (UBD) 訪問記

人文学部准教授 長田華子 (アジア経済論)

大学間交流締結に向けた交渉と調査を目的に人文学部の長田華子准教授が、昨年 12 月 8 日から 12 日までブルネイのダルサラーム大学を訪問しました。同大学からは、一昨年 10 月に学生の使節団が本学を訪れ、本学部の学生と交流したことは当時、学部のホームページでお知らせしました。今回は、長田准教授に同大学の訪問記を寄せていただきました。



先日、国際戦略室の加藤禎久さん(国際コーディネーター)と同大を訪れました。大学が本拠とするブルネイ・ダルサラーム国は、東南アジアのボルネオ島の北部に位置する国です。国土面積は、三重県とほぼ同じ(5,765 万km<sup>2</sup>)、人口はわずか 40.6 万人(2013 年・外国人在留者を含む)の小さな国です。



留学生寮(The Core)

公用語のマレー語に加え、英語が広く通用し、敬虔なイスラム教徒(国教・67%)が多い国です。石油や天然ガスに恵まれ、東南アジア諸国の中で、一人当たりの経済水準はシンガポールに次いで高いこともあり、道路などのインフラは整備され、「街はとてもきれい」、「安心安全」の雰囲気が漂っていました。

同国の 4 つの国立大学中、最大規模の大学が、ブルネイ・ダルサラーム大学(UBD)です。1985 年に設立された UBD には、現在、3,137 人の学生が(学部生 2,635 人、大学院生 502 人)の学生が所属しております。人文社会科学部、ビジネス経済学部、理学部、先端工学部などの学部をもつ総合大学ですが、特に、人文社会科学系に強みを持つ総合大学として知られています。

人文社会科学系の教員の多くが、アジア学研究所や、政策学研究所、イスラム学研究所などに所属し、ASEAN の経済や政治、人口移動、イスラム教をはじめとする最先端の研究に携わっています。

今回の訪問では、国際担当の Teo 副学長、語学センターの教員、人文社会科学部の学



ブルネイの町並み

部長、教員との面会、さらに、留学生寮なども視察しました。

UBD では、1 カ月の英語による国際プログラム (Global Discovery Program・GDP) を年に 3 回開講しています。韓国や香港、中国、ASEAN 諸国など多様な国籍、人種の学生が一堂に集まり、英語でブルネイの歴史や文化、生物多様性やエネルギー問題などについて講義を受け、討論するプログラムです。

早ければ、来年 8 月にも人文学部の学生が参加することができるようになるでしょう。また、UBD の学生の日本への留学希望者は多く、今後は、ブルネイの学生が人文学部で学ぶ姿も見られることでしょう。



世界経済の中でのアジアの重要性は高まるばかりです。ブルネイは、ASEAN の中心ともされ、シンガポール、マレーシア、インドネシア等いずれの国にも 2 時間程度で行ける距離にあります。日本人にとって、あまりなじみのない、ブルネイ・ダルサラーム国ですが、特に、アジアの政治や経済、社会、文化、そしてイスラム教などに関心のある学生にとって、UBD への留学は実り多きものとなると、今回の訪問を機に切に感じました。 (終)

UBD の人文社会科学部学部長 (中央) と教員との集合写真



(注、写真は長田先生提供)